

**委託事業実施内容報告書**  
**平成27年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業**  
**【地域日本語教育実践プログラム（B）】**

**実施内容報告書**

受託団体名： 学習院大学

**1. 事業名称**

大学と地域の連携によるライフステージにあわせた日本語教育―「多文化共生型地域社会の共創」をめざして―

**2. 事業の目的**

1997年より豊島区と連携して実施している日本語教室を基礎として、2013年からは青年層向け教室と高い年齢層（生活者・社会人）向け教室という二つの日本語教室を運営してきた。本年度はこれまでの小学校から大学、社会人に至るまでの外国人のライフステージにあわせた日本語教育のプログラムを継続しつつ、地域社会との連携をより強化するプログラムを実施する。消防署や保健所・交通対策室・消費生活センター・清掃環境部（ゴミ分別）、保育園・小学校や国際交流ボランティア団体などと連携し、知（地）の拠点としての大学を軸に、日本語教育を通じての「多文化共生型地域社会の共創」に向けてより一層の事業展開を行う。

**3. 事業内容の概要**

本事業では3つの取り組みを行った。

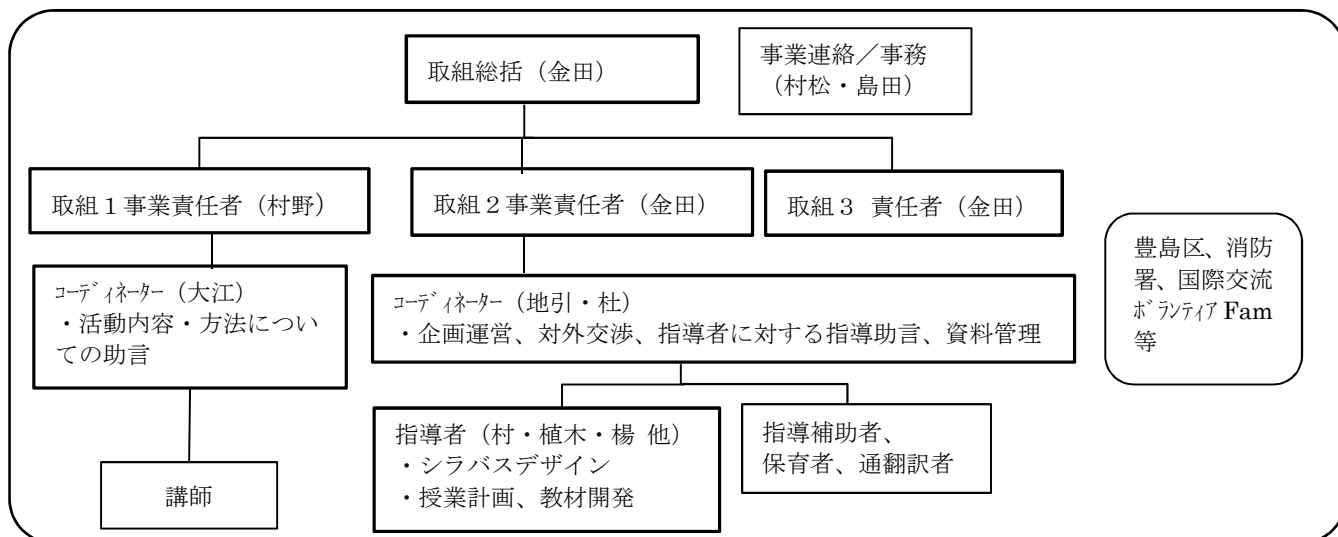
①取組 1 生活に役立つ日本語教室：学生と同世代の青年層を主な参加者に設定し、日本人学生とともに考え、ともに学びつつ、日本での生活に役立てる。

②取組 2 社会に生きる日本語講座：学生よりも年齢の高い世代の社会人に対して「生活のための日本語（緊急時対応・医療関係など生命にかかわる事柄、市民生活、親としての生活、社会生活）」のやりとりを重視した日本語授業を展開する。

③取組 3 シンポジウム「外国人と共に生きる多文化共生型地域社会の共創―日本語教育を軸として」：大学・地域連携による日本語教育事業を通じて得た知見と上記の取組1・取組2での実績、他地域における実践について討論し、次年度以降の事業の方向性を議論する。

**4. 事業の実施体制について**

本事業は以下の体制で実施した。



## 5. 運営委員会の開催について

### 【運営委員】

|   |       |                         |
|---|-------|-------------------------|
| 1 | 金田智子  | 学習院大学文学部                |
| 2 | 村野良子  | 学習院大学文学部                |
| 3 | 小出友子  | 豊島区文化商工部学習スポーツ課生涯学習グループ |
| 4 | 青木マサ子 | 国際交流ボランティア Fam          |
| 5 | 品田潤子  | 公益社団法人国際日本語普及協会<AJALT>  |
| 6 | 吉田聖子  | あけぼの会                   |
| 7 | 米勢治子  | 東海日本語ネットワーク             |
| 8 | 文野峯子  | 人間環境大学                  |

### 【概要】

| 回 | 開講日時                                   | 時間数    | 場所                     | 出席者  | 議題及び検討内容   |
|---|--|--------|------------------------|--|--|
| 1 | 平成 27 年<br>10 月 29 日(木)<br>15:00-17:30 | 2.5 時間 | 学習院大学<br>国際会議場         | 青木マサ子、小出友子、文野峯子、吉田聖子、村野良子、金田智子、村松弘一、島田郁代、大江淳子、地引愛、杜長俊      | 1. 昨年度の課題の解決状況の確認と、今年度の事業内容の検討<br>2. 各取組の位置づけと特徴に関する再確認<br>3. 新たに展開する教室(幼稚園での出張教室)に関わる課題提示と意見交換<br>4. 成果の検証方法の具体化(能力判定の可能性)について意見交換<br>5. ローカルメディアという広報手段について検討              |
| 2 | 平成 28 年<br>1 月 25 日(月)<br>15:00-17:30  | 2.5 時間 | 学習院大学 南<br>1号館 201 号教室 | 青木マサ子、小出友子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、村野良子、金田智子、村松弘一、島田郁代、地引愛、杜長俊 | 1. 今年度事業の経過報告<br>2. 取組1と取組2の運営方法の改善について意見交換<br>3. 学習ポートフォリオの活用に関する新たな課題や可能性の提示<br>4. 新たに展開した教室の休止に関して、原因の検討及び意見交換<br>5. シンポジウムの内容について意見交換<br>6. 豊島区内の他の日本語教室に関する現状調査について意見交換 |

|   |                                       |      |                |  |  |
|---|---------------------------------------|------|----------------|--|--|
| 3 | 平成 28 年<br>3 月 14 日(月)<br>13:00-17:00 | 4 時間 | 学習院大学<br>国際会議場 | 青木マサ子、小出友子、品田潤子、文野峯子、吉田聖子、米勢治子、金田智子、島田郁代、地引愛、杜長俊 | 1. 同日開催シンポジウムへの参加、平成 27 年度実践についてのコメント・意見交換<br>2. 平成 27 年度事業全体に対する評価<br>3. 次年度事業に向けての意見交換 |
|---|---------------------------------------|------|----------------|--|--|

## 6. 取組についての報告

### 取組1：生活に役立つ日本語教室

#### (1) 体制整備に向けた取組の目標

- 1) 日本在住の青年外国人が同世代の日本人学生とともに考え、日本語を活かして、ともに学ぶことを通じて、日本での生活に自信を持ち、相互理解を深める。
- 2) これまでも豊島区商工部学習・スポーツ課の協力を受けて実施してきたが、豊島区担当者が本事業運営委員として本取組に関わることにより、学習院大学と豊島区との協力体制をより一層強化する。

#### (2) 取組内容

地域貢献の場、日本語教育専攻学生との交流の場として、大学院生・学部生有志によって引き継がれてきた本教室の特徴を生かして事業を実施した。学生1名が講師となり、他の本学学生と外国人学習者が小グループに分かれて協働学習を行う形式で進めた。相互の学びを方針として、対等の立場で一緒に学ぶ姿勢を保つこと、話したいことが話せるように個別にサポートすることを心がけた。青年外国人に対するニーズ調査及び日本人学生の興味関心等をもとに、「観光地：おすすめの場所を聞こう・話そう」「災害と盗難：もしものとき、どうしますか」「病院：問診票の書き方や症状の伝え方」「日本の四季と習慣」などをテーマに、ディスカッションやインタビューなど、本学学生とのインターアクションを多く取り入れた。

#### (3) 対象者

豊島区在住の青年外国人(初級修了程度の日本語能力を持っていることが望ましい)及び、本学学生

(4) 参加者の総数 41 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 25 人

#### 【出身・国籍別内訳】

| 中国  | 韓国  | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ  | ペルー | フィリピン | 日本  |
|-----|-----|------|------|------|--------|-----|-----|-------|-----|
| 4 人 | 2 人 |      | 2 人  |      |        | 2 人 |     | 2 人   | 1 人 |

※その他の国籍と人数：

台湾 3 人、イギリス 2 人、オーストラリア 1 人、イタリア 2 人、フランス 1 人、ポーランド 1 人、インド 1 人、チリ 1 人

#### (5) 開催時間数(回数)

・ 20 時間 ( 1 時間 × 全 20 回 )

#### (6) 活動の内容

\* 本取組の指導者は全て無償

| 回 | 開講日時                           | 時間数  | 場所          | 受講者数 | 取組のテーマ | 授業概要   | 指導者名  | 補助者名 |
|---|--------------------------------|------|-------------|------|--------|--|-------|------|
| 1 | 平成 27 年 4 月 21 日(火)15:00~16:00 | 1 時間 | 学習院大学西 2 号館 | 15   | 自己紹介   | ・簡単な自己紹介の練習<br>・好きな物事について話す<br>・相手を知るために質問する | 伊東万里子 |      |

|    |   |      |                 |    |                        |  |       |  |
|----|---|------|-----------------|----|------------------------|--|-------|--|
| 2  | 平成 27 年 4 月<br>28 日(火) 15:00<br>~16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 13 | お風呂の<br>文化             | ・それぞれのお風呂文化につ<br>いて話す<br>・日本の温泉・銭湯のルール<br>を考える                 | 中村恵理子 |  |
| 3  | 平成 27 年 5 月<br>12 日(火) 15:00<br>~16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 12 | 観光地紹介                  | ・自国の良い場所を説明する<br>・質問に答える                                       | 越田涼介  |  |
| 4  | 平成 27 年 5 月<br>19 日(火) 15:00<br>~16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 11 | 贈り物                    | ・それぞれの文化の贈り物に<br>ついて話す<br>・日本の贈り物の文化を学ぶ<br>・その時に使う日本語を練習<br>する | 笠井梨咲  |  |
| 5  | 平成 27 年 5 月<br>26 日(火) 15:00<br>~16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 12 | 料理 1<br>(日本料理)         | ・料理の手順を理解する<br>・料理の手順を説明する                                     | 山田衛   |  |
| 6  | 平成 27 年 6 月 2<br>日(火) 15:00~<br>16:00   | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 12 | 料理 2<br>(自国料理)         | ・料理の手順を説明する<br>・おすすめの理由を話す<br>・質問に答える                          | 山田衛   |  |
| 7  | 平成 27 年 6 月 9<br>日(火) 15:00~<br>16:00   | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 11 | 地震が起こ<br>ったら、どう<br>する？ | ・地震の時に使われる言葉を<br>理解する<br>・地震の時にどんな行動をと<br>るか、その理由も併せて説明<br>する  | 伊東万里子 |  |
| 8  | 平成 27 年 6 月 16<br>日(火) 15:00~<br>16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 10 | お祭                     | ・それぞれの文化のお祭につ<br>いて説明する<br>・質問に答える                             | 関健斗   |  |
| 9  | 平成 27 年 6 月 23<br>日(火) 15:00~<br>16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 11 | 体の調子が<br>悪い時           | ・体の調子についてオノマト<br>ペを使って説明する                                     | 井内智子  |  |
| 10 | 平成 27 年 6 月 30<br>日(火) 15:00~<br>16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 12 | 電車                     | ・目的地への行き方を聞く<br>・何かあった時のアナウンス<br>を聞き取る                         | 八巻明日香 |  |
| 11 | 平成 27 年 9 月 29<br>(火) 15:00~1<br>6:00   | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 11 | 自己紹介                   | ・簡単な自己紹介の練習<br>・好きな物事について話す<br>・相手を知るために質問する                   | 中村恵理子 |  |
| 12 | 平成 27 年 10 月<br>6 日(火) 15:00<br>~16:00  | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 11 | 観光地紹介                  | ・自国の良い場所を説明する<br>・質問に答える                                       | 八巻明日香 |  |
| 13 | 平成 27 年 10 月<br>13 日(火) 15:00<br>~16:00 | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 10 | 防災 1<br>(地震)           | ・地震の時に必要な言葉を理<br>解する<br>・地震の時、自分ならどんな<br>ことをするか理由を合わせて<br>説明する | 越田涼介  |  |
| 14 | 平成 27 年 10 月<br>20 日(火) 15:00<br>~16:00 | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 11 | 防災 2<br>(水害 その<br>他)   | ・地震以外の災害時に必要<br>な言葉を理解する<br>・それぞれの国の防災につ<br>いて話す               | 越田涼介  |  |
| 15 | 平成 27 年 10 月<br>27 日(火) 15:00<br>~16:00 | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 10 | 食事会 1                  | ・食事会のお誘いに使われる<br>言葉を理解する<br>・お互いの予定を話して調整<br>する日本語を学ぶ          | 菅祥宣   |  |
| 16 | 平成 27 年 11 月<br>10 日(火) 15:00<br>~16:00 | 1 時間 | 学習院大学<br>西 2 号館 | 9  | 食事会 2                  | ・食べたいものについて話す<br>・食べられないものを伝える<br>・電話で注文する                     | 菅祥宣   |  |

|    |                                   |     |               |    |                 |   |       |  |
|----|-----------------------------------|-----|---------------|----|-----------------|---|-------|--|
| 17 | 平成27年11月<br>17日(火)15:00<br>~16:00 | 1時間 | 学習院大学<br>西2号館 | 9  | 校外学習1<br>(事前学習) | ・季節の行事について話す<br>・翌週の校外学習についての<br>説明を理解する                  | 中村恵里子 |  |
| 18 | 平成27年11月<br>24日(火)15:00<br>~16:00 | 1時間 | 六義園           | 10 | 校外学習2<br>(六義園)  | ・紅葉狩りをしながら感想を<br>お互いに話す<br>・翌週の報告のために写真を<br>撮る            | 水野萌香  |  |
| 19 | 平成27年12月1<br>日(火)15:00~<br>16:00  | 1時間 | 学習院大学<br>西2号館 | 9  | 校外学習3<br>(事後学習) | ・SNSにアップロードする想定<br>で写真の説明を書く<br>・SNSで見た想定で写真にコ<br>メントを付ける | 水野萌香  |  |
| 20 | 平成27年12月8<br>日(火)15:00~<br>16:00  | 1時間 | 学習院大学<br>西2号館 | 10 | まとめ             | ・色々なトピックについて話す<br>(すごろく形式)<br>・質問する/答える                   | 山田衛   |  |

## (7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### 取組事例①

【第16回 平成27年11月10日】

- ・ 食事がどこで行われるかを確認し、食べられないものや苦手なものについて伝える。
- ・ 自分が食べられない/苦手な食材の日本語を確認する
- ・ 食べられない理由を聞かれた時の答え方を考える(\*写真はそれぞれが理由を考えた後、学習院大学の学生が日本語のチェックをし、さらに詳しく聞いて、良い伝えかたになるようにサポートしているところ)
- ・ ペアになって、誘いを受ける、苦手なものを伝える練習
- ・ 電話でピザを注文する練習



### 取組事例②

【第19回 平成27年12月1日】

- ・ SNSに写真をアップロードするという想定で、写真の説明文を書く
- ・ それぞれの写真と説明を見て、SNS上でコメントするという想定でコメントを書く  
⇒コメントの書き方(ていねいさ、顔文字など)について学習院大学の学生に質問したり、自国の文化について説明したりする。

\*写真は、それぞれの写真シートを順番に回しながらコメントを書いているところ。



## (8) 目標の達成状況・成果

授業後、毎回 5 段階尺度のアンケートを行った。項目は次の 5 つ。

- ①担当者の話す速さ
- ②授業の内容のむずかしさ
- ③授業の内容に対して興味が持てたか
- ④授業で新しい学びがあったか
- ⑤話したいことをたくさん話せたか

5 項目とも 5 段階のうち 3(普通)より悪くなることはなかった。回を追うごとに⑤の「たくさん話せましたか」の評価が上がる傾向にあり「話したいことが話せるように個別にサポートする」というこの日本語教室の目標はおおむね達成できたと考える。

## (9) 今後の改善点について

最も改善すべき点はテーマ選びとサポートの質である。テーマについては前述のアンケート項目③「授業の内容に対して興味が持てたか」で「ふつう」という回答が散見される回もあり、より興味を引くテーマを考える必要がある。学習者は大学生の年代の人が多いため、その年代の興味・生活に深くかかわるものがないと思われる。また 1 対 1 でサポートしているため、それぞれのサポートの質が違うことによって学習者のその回の満足度も変化していると思われる。授業後に運営側の学生で反省会を行って、サポートの際の悩みやコツを共有するようにしているが、今後もこれを続け、時間が許せば勉強会なども開催したほうが良いだろう。

## 取組2: 社会に生きる日本語講座

### <教室A: 名称「わくわくとしま日本語教室 ぐんぐんクラス」>

#### (1) 体制整備に向けた取組の目標

- 1) 外国籍住民が、より多くの領域で日本語を用いてコミュニケーションできるよう、必要な日本語の能力を身に付け、日本の地域社会に溶け込む経験と自信を培う。
- 2) 現状評価、目標設定、達成度の自己評価・相互評価、学習記録などからなる「学習ポートフォリオ」を活用することを通して、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。
- 3) 豊島区、区内消防署、各種国際交流団体などの協力を得て、緊急時対応に備える講座等を開き、外国人住民に対する地域社会における理解を深めるとともに、各組織・団体と大学との連携を強化し、協働で地域の日本語教育に取り組んでいくための体制を作る。



(2) 取組内容

豊島区在住・在勤の外国人を対象に、日本の地域社会に溶け込むために必要となる日本語(文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』参考)を身に付けると同時に、日本の暮らしで蓄積された社会文化知識を生かしたプロジェクトワークの日本語教室を企画・運営する。

(3) 対象者

- 1) 豊島区在住・在勤している外国人
- 2) 日本語を学校などで正式に学習した経験のない外国人

(4) 参加者の総数 32 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 15 人

【出身・国籍別内訳】

|    |    |      |      |      |        |    |     |       |    |
|----|----|------|------|------|--------|----|-----|-------|----|
| 中国 | 韓国 | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ | ペルー | フィリピン | 日本 |
| 2人 |    |      | 2人   |      |        |    |     | 1人    | 1人 |

※その他の国籍と人数:

シリア 1人、台湾 3人、セントルシア 1人、ミャンマー 2人、キューバ 1人、コロンビア 1人

(5) 開催時間数(回数)

・ 70.5 時間 ( 2.25 時間×30 回、3 時間×1 回、全 31 回)

(6) 活動の内容

「\*」は無償の意

| 回 | 開講日時                                  | 時間数        | 場所                     | 受講者数 | 取組のテーマ | 授業概要   | 指導者名                       | 補助者名                                   |
|---|---------------------------------------|------------|------------------------|------|--------|--|----------------------------|--|
| 1 | 平成 27 年<br>6 月 6 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 自己紹介   | ①授業の計画や学習ポートフォリオの使用法を紹介する<br>②人間関係を築く自己紹介の仕方を練習する        | * 杜長俊                      | 村麻央<br>楊爽<br>牟田綾                       |
| 2 | 平成 27 年<br>6 月 13 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 7 人  | 買い物    | ①食品を取り寄せる情報を得る練習をする<br>②情報をもとに商品を選択する活動を行う               | 牟田綾                        | 楊爽                                     |
| 3 | 平成 27 年<br>6 月 20 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 6 人  | 食事会    | ①食事会の開催に向けて参加者の希望をまとめる練習をする<br>②食事会の詳細について幹事として話し合う活動を行う | * 杜長俊                      | 牟田綾                                    |
| 4 | 平成 27 年<br>6 月 27 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 7 人  | 食事会    | ①予約に必要な言い方を練習する<br>②店に予約の電話をする                           | 楊爽                         | 植木光輝                                   |
| 5 | 平成 27 年<br>7 月 4 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 7 人  | 食事会    | ①予約の電話(録音したもの)を聞いて、振り返りの活動を行う<br>②食事会のお知らせを作る            | 村麻央                        | 牟田綾<br>楊爽                              |
| 6 | 平成 27 年<br>7 月 11 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 通報・災害  | ①火災や事故の通報の練習をする<br>②地震に関する体験を住民にインタビューする                 | 【前半】<br>村麻央<br>【後半】<br>牟田綾 | 【前半】<br>牟田綾<br>楊爽<br>【後半】<br>村麻央<br>楊爽 |

|    |  |            |                        |      |              |  |                        |           |
|----|--|------------|------------------------|------|--------------|--|------------------------|-----------|
| 7  | 平成 27 年<br>7 月 18 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 7 人  | 情報発信         | ①各自がインタビューした内容をまとめる<br>②まとめた内容を新聞の形でまとめなおす                 | 楊爽                     | 牟田綾       |
| 8  | 平成 27 年<br>7 月 25 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 電子メール        | ①メールの書き方(宛名、件名、要件等)を練習する<br>②先生に食事会の写真をメールで送る練習をする         | 牟田綾                    | 楊爽<br>村麻央 |
| 9  | 平成 27 年<br>8 月 1 日(土)<br>10:00-12:15   | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 情報発信         | 食事会の目的、感想や店の紹介を新聞の形にまとめる                                   | 村麻央                    | 楊爽        |
| 10 | 平成 27 年<br>8 月 8 日(土)<br>10:00-12:15   | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 復習           | ①学習ポートフォリオを用いてこれまで勉強したものを整理する<br>②これまで勉強したことを活用し、ロールプレイを行う | * 杜長俊                  | 村麻央       |
| 11 | 平成 27 年<br>8 月 29 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 話し合い         | ①自分の意見を述べる練習をする<br>②イベントの内容について話し合う                        | 楊爽                     | 村麻央       |
| 12 | 平成 27 年<br>9 月 5 日(土)<br>10:00-12:15   | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 話し合い         | ①相手の意見を求める練習をする<br>②イベントの内容について話し合う                        | 村麻央                    | 楊爽        |
| 13 | 平成 27 年<br>9 月 12 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 問い合わせ        | ①メールの書き方を練習する。<br>②区役所に出前講座の問い合わせのメールを書く                   | 村麻央                    | 牟田綾       |
| 14 | 平成 27 年<br>9 月 19 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 3 人  | 問い合わせ        | ①区役所からの返事を読む<br>②区役所に返事を書く                                 | * 杜長俊                  | 牟田綾<br>楊爽 |
| 15 | 平成 27 年<br>9 月 26 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 打ち合わせ        | ①打ち合わせの実施に向けて必要な言い方を練習する<br>②訪問時のマナー(挨拶等)を練習する             | 牟田綾                    | 楊爽        |
| 16 | 平成 27 年<br>10 月 3 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 打ち合わせ        | 打ち合わせの実施に向けて必要な言い方を練習する                                    | 楊爽                     | 牟田綾       |
| 17 | 平成 27 年<br>10 月 17 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 3 人  | イベントの準備      | ①打ち合わせのビデオを見て、自分の行動をふりかえる<br>②イベントのちらしを作る                  | 牟田綾<br>* 奥山和南<br>* 王欣欣 | 村麻央       |
| 18 | 平成 27 年<br>10 月 24 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | イベントの準備      | ①イベントの仕事分担について話し合う<br>②イベントのリハーサルを行う                       | 牟田綾                    | * 杜長俊     |
| 19 | 平成 27 年<br>11 月 7 日(土)<br>13:00-15:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 29 人 | イベント:<br>歌舞伎 | 主催者としてイベント「歌舞伎をやってみよう」を行う                                  | 牟田綾                    | 楊爽        |
| 20 | 平成 27 年<br>11 月 14 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 復習           | ①学習ポートフォリオを用いてこれまで勉強したものを整理する<br>②これまで勉強したことを活用し、ロールプレイを行う | 牟田綾                    | * 杜長俊     |



|    |  |            |                        |      |                             |   |             |           |
|----|--|------------|------------------------|------|-----------------------------|---|-------------|-----------|
| 21 | 平成 27 年<br>11 月 28 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 写真につ<br>いて話す                | ①第3セッションで勉強すること<br>を紹介する<br>②写真を用いて自分の出来<br>事を話す練習をする                                 | *杜長俊        | 牟田綾       |
| 22 | 平成 27 年<br>12 月 5 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 3 人  | レシピにつ<br>いて話す               | ①料理の手順を説明する練<br>習を行う<br>②得意な料理について紹介<br>する  | 牟田綾         | 呉健超       |
| 23 | 平成 27 年<br>12 月 12 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 出来事につ<br>いて話<br>す           | ①展開があるストーリーを説<br>明する練習を行う<br>②3コママンガを説明する   | 山内裕美子       | 牟田綾       |
| 24 | 平成 27 年<br>12 月 19 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 6 人  | 出来事につ<br>いて話<br>す           | ①出来事の背景や状況を説<br>明する練習を行う<br>②ショックな出来事を話す  | 牟田綾         | 山内裕美子     |
| 25 | 平成 28 年<br>1 月 9 日(土)<br>10:00-12:15   | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 3 人  | 文化紹介                        | ①自分の国の有名な飲み物<br>について相手に紹介する<br>②イベントの実施に向けて、<br>グループ分けを行う                             | 黄臣成         | 楊爽<br>牟田綾 |
| 26 | 平成 28 年<br>1 月 16 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 文化紹介                        | ①イベントの実施に向けて、<br>グループの中の分担につ<br>いて話す<br>②自分の国の有名な飲み物<br>を紹介する練習を行う                    | 牟田綾         | 村麻央       |
| 27 | 平成 28 年<br>1 月 23 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 文化紹介                        | ①飲み物の入れ方を説明す<br>る練習を行う<br>②自分の国の飲み物の入れ<br>方を実演しながら説明する                                | 村麻央         | 牟田綾       |
| 28 | 平成 28 年<br>1 月 30 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 5 人  | 文化紹介                        | ①自分の国の飲み物を紹介<br>する練習を行う<br>②自らの紹介(ビデオ)を見て<br>意見交換する                                   | 楊爽<br>村麻央   | なし        |
| 29 | 平成 28 年<br>2 月 13 日(土)<br>9:30-12:30   | 3 時間       | 目白庭園                   | 12 人 | イベント:<br>自分の文<br>化を紹介<br>する | ①日本茶(せん茶、ほうじ茶)<br>の入れ方を学ぶ<br>②自分の国の飲み物を紹介<br>する                                       | 植木光輝<br>村麻央 | なし        |
| 30 | 平成 28 年<br>2 月 20 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 4 人  | 情報発信                        | ①学習ポートフォリオを用い<br>てこれまで勉強したものを整<br>理する<br>②イベントの内容を新聞記事<br>としてまとめる                     | 村麻央         | *杜長俊      |
| 31 | 平成 28 年<br>2 月 27 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>302 室 | 2 人  | 能力判定                        | ①とよた日本語能力判定を<br>実施する<br>②テストの結果に基づくコン<br>サルテーションを行い、自身<br>の日本語能力の伸長と今後<br>の課題について話し合う | 楊爽          | *杜長俊      |

## (7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### 取組事例①

#### 【第 19 回 平成 27 年 11 月 7 日】

学習院大学国劇部との連携で、「歌舞伎をやってみよう」というイベントを実施した。①歌舞伎の概要(音楽、化粧、衣装、演目、舞台) ②歌舞伎の実演(動作やセリフを体験する)という内容であった。当日は、進行役や受付の仕事などを、学習者自身が担当した。このイベントの趣旨は、イベントの主催者としてイベントの

開催を経験することにある。

\* 写真は、学習者が歌舞伎の動作やセリフを体験している様子(左)と、質疑応答の時間において、学習者が進行している様子(右)である。



## 取組事例②

### 【第 29 回 平成 28 年 2 月 13 日】

国際交流ボランティア Fam の方々を迎え、各国の伝統的な飲み物に関する文化体験授業を行った。Fam の方々から、煎茶とほうじ茶の入れ方の説明を受け、実際にお茶を入れることを体験した。そして、学習者は、自分の国の飲み物を紹介し、その場でお茶を入れてイベントの参加者にふるまった。中国の鉄観音茶、台湾の高山茶、シリアのトルココーヒー、フランスのシードル、ベトナムのジャスミン茶など、お互いの文化に対する理解を深めた。

\* 写真は、日本茶の説明を受けている様子(左)と、学習者が日本人講師と日本人参加者に自分の国の飲み物をふるまっている様子(右)である。



## (8) 目標の達成状況・成果

### 1) 日本語能力の伸長

本プログラムの効果を確かめることと、学習者に自身の日本語能力に対して自覚的になるのを促すことを目的に、「とよた日本語能力判定」を2回実施した。1回目(7月下旬~8月上旬)は、学習者のレベルは要支援段階(レベル 2)、あるいは自立段階(レベル 3)と判定された。コースの最後(2月下旬)に実施した2回目の

結果では、拡大段階(レベル4)に上がっている学習者がいた。学習者へのアンケートからも、全ての学習者が自らの日本語能力の伸長を実感していることが分かった。また、「食事会の幹事」「歌舞伎をやってみよう」「お茶のイベント」などのプロジェクトワークを通して、家族や友人に自らの活躍を見せることができ、日本の地域社会で自信を持って生きている実感を持つことができたという学習者の声が寄せられた。

## 2) 学習ポートフォリオ

コースの最後に実施した学習者アンケートに、授業外の出来事を学習ポートフォリオに記録することで、自らの学習意欲を高めることができたとの回答があった。また、今年度から、記録した内容をクラス全体で共有する時間を設けている。定期的な共有を通して、学習ポートフォリオは、単なる書面での記録のみではなく、お互いの学習状況を知るとともに、教師と学習者または学習者同士のコミュニケーションの道具として活用されるものとなっている。そして、授業内の記録に関しても、毎回の授業後に、新しく知った言葉や言い回しを記録できるものに改善し、学習者の学習状況を教師が把握する客観的な材料としても活用されている。

## 3) 地域との連携

本教室は、今年度「レストランシャーク」「学習院大学国劇部」「国際交流ポランディア Fam」という3つの団体との連携を試みた。まず、「レストランシャーク」という目白駅付近にある飲食店で、食事会というイベントを行った。このイベントでは、学習者が店側に料理の要望を伝え、予約を行うという事前の準備をした。実施後には、店側から本教室の Facebook に書き込みがあり、それに対し学習者もお礼の返事をした。そして、「学習院大学国劇部」とは、「歌舞伎をやってみよう」というイベントを実施した。このイベントでは、学習者が主催者として参加し、国劇部との事前の打ち合わせを行った。最初はコミュニケーションの仕方を模索しつつ戸惑いがあったが、最終的に「外国人と一緒に働く楽しさを知った(国劇部)」「日本の家族に自分の活躍を見せることができてよかった(学習者)」というように、交流・連携への前向きな態度を見せた。最後に、国際交流ポランディア Fam との連携で、お茶のイベントを行った。このイベントでは、学習者がお茶の講師から日本茶の入れ方を学ぶとともに、自身の国の飲み物を紹介し、参加者にふるまっていた。学習者の文化紹介に対して、イベント実施後のアンケートに「お茶1つでいろいろな文化と触れることができ、違いがあるからこそ楽しみがあった」との日本茶の講師からのコメントがあった。

## (9) 今後の改善点について

### 1) 途中でやめる学習者への対応

年間を通して継続的に参加した学習者は5名であった。仕事や育児の関係で辞めざるを得ない学習者がいた。これを防ぐために、セッションの途中に定期的にヒアリングやアンケート調査を行うべきであった。新規の学習者への募集に力を入れるとともに、学習者が継続的に参加するような方策を検討する必要がある。

### 2) プロジェクトワークの連携先とのやりとり

「食事会の幹事」「歌舞伎をやってみよう」「お茶のイベント」という3つのプロジェクトワークを実施した。1つ目の活動において、食事会の店側とは特に打ち合わせを行わなかった。2つ目と3つ目の活動では、コーディネーターは連携先との打ち合わせを複数回行ったが、プロジェクトワークを実施する趣旨や目的を連携先に十分に伝えることができていなかった。地域の組織・団体と協働で日本語教育に取り組んでいくためには、「学習者」と「地域の連携先」の相互交流だけではなく、「日本語教室」の役割を明確にし、連携先とのコミュニケーションの方法を確立していく必要がある。

### 3) 学習ポートフォリオの活用

今年度は、授業内と授業外の学習を記録したものをクラスの中で共有することで、学習者が教師や学習者と意見交換ができたが、こうした意見交換により自らの日本語学習者への意識や態度がどう変わったかを記録するものとして活用するには、さらなる改善が必要である。また、新規の学習者は、学習ポートフォリオの



意義や活用方法を理解するまで時間がかかっていた。コースの途中から参加する学習者に対しても、学習ポートフォリオの意義を十分に伝える時間や確保し、適切な方法を確立する必要がある。

### <教室B:名称「わくわくとしま日本語教室 わくわくクラス」>

#### (1) 体制整備に向けた取組の目標

- 1) 外国籍住民が、より多くの領域で日本語を用いてコミュニケーションできるよう、必要な日本語の能力を身に付け、日本の地域社会に溶け込む経験と自信を培う。
- 2) 現状評価、目標設定、達成度の自己評価・相互評価、学習記録などからなる「学習ポートフォリオ」を活用することを通して、継続的・自律的な学びにつながる力を養う。
- 3) 豊島区、区内消防署、各種国際交流団体などの協力を得て、緊急時対応に備える講座等を開き、外国人住民に対する地域社会における理解を深めるとともに、各組織・団体と大学との連携を強化し、協働で地域の日本語教育に取り組んでいくための体制を作る。

#### (2) 取組内容

豊島区在住・在勤の外国人を対象に、地域社会で生きていくために必要な日本語と社会知識を扱う日本語教室を企画・運営する。学習目標は文化審議会国語分科会『「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案』を参考とし、病院や交通機関の利用、火災等緊急時の対応など、日本で生活する上で必要度が高いと思われる日本語学習を行う。併せて、日本の風習や習慣(ゴミの分別、お茶の淹れ方等)も学習する。また、毎授業、文字を学習する時間を10分程度設け、ひらがな・カタカナの読み書きから申込書、年賀状の書き方を学ぶ。

教室外や教室参加後の日本語学習が継続的に行われるように、自己評価及び学習管理の方法を知るための学習ポートフォリオを作成・使用し、自律的な学びへの支援として、教室内外で活用する。

#### (3) 対象者

- 1) 豊島区在住・在勤している外国人
- 2) 日本語を学校などで正式に学習した経験のない外国人
- 3) 単語やあいさつなどの定型表現以外は使えない、ひらがな・カタカナの読み書きは難しい外国人

(4) 参加者の総数 20 人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 15 人

#### 【出身・国籍別内訳】

|    |    |      |      |      |        |    |     |       |    |
|----|----|------|------|------|--------|----|-----|-------|----|
| 中国 | 韓国 | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ | ペルー | フィリピン | 日本 |
| 7人 |    |      |      |      |        |    |     |       |    |

※その他の国籍と人数:

ミャンマー 3人、フランス 1人、米国 1人、パキスタン 1人、台湾 1人、キューバ 1人

#### (5) 開催時間数(回数)

・ 71.25 時間 (2.25時間×29回、3時間×2回、全31回)

#### (6) 活動の内容

「\*」は無償の意

| 回 | 開講日時 | 時間数 | 場所 | 受講者数 | 取組のテーマ | 授業概要 | 指導者名 | 補助者名 |
|---|------|-----|----|------|--------|------|------|------|
|---|------|-----|----|------|--------|------|------|------|

|    |                                       |            |                        |     |   |   |                              |  |
|----|---------------------------------------|------------|------------------------|-----|---|---|------------------------------|--|
| 1  | 平成 27 年<br>6 月 6 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 4 人 | ①オリエン<br>テーション<br>②近所の人<br>にあいさつ<br>をする | ①授業の計画や学習ポート<br>フォリオの使用を紹介し、こ<br>れからの目標を立てる。<br>②近所の人と人間関係を築く<br>ための簡単なあいさつを学<br>習。                 | 【前半】<br>地引愛<br>【後半】<br>山内裕美子 | 沈淇文<br>黄臣成<br>中嶋美鈴<br>(通訳)                 |
| 2  | 平成 27 年<br>6 月 13 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 9 人 | 買い物をす<br>る                              | ①対面販売で、注文・支払が<br>できるような表現、数の数え<br>方を練習。<br>②文字学習:ひらがなで「くだ<br>さい」を見てわかる練習。                           | 沈淇文                          | 山内裕美子<br>黄臣成                               |
| 3  | 平成 27 年<br>6 月 20 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 6 人 | 電車に乗る                                   | ①駅で、目的地までの行き方<br>を尋ねられるような表現の練<br>習。<br>②文字学習:清音と濁音の違<br>いがわかる練習。                                   | 植木光輝                         | 山内裕美子<br>黄臣成                               |
| 4  | 平成 27 年<br>6 月 27 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 7 人 | 薬局で薬を<br>買う                             | ①薬局で、自分の症状を言<br>い、薬を購入できるような表<br>現の練習。<br>②文字学習:小さい「や・ゆ・<br>よ」が読める練習。                               | 沈淇文                          | 植木光輝<br>山内裕美子                              |
| 5  | 平成 27 年<br>7 月 4 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 6 人 | 地震から身<br>を守る                            | ①地震発生時の行動、発生<br>後の行動を知る。地震が発<br>生した際、指示がわかるよう<br>に、指示を聞く練習。<br>②文字学習:ひらがなの 50<br>音表の見方がわかる。         | 山内裕美子                        | 楊爽   |
| 6  | 平成 27 年<br>7 月 11 日(土)<br>10:00-13:00 | 3<br>時間    | 池袋防災館                  | 9 人 | 防災訓練を<br>する                             | ①池袋防災館で、震度 6 以上<br>の地震体験をする。<br>②火事が起こった際の対処、<br>消火器の使い方などを学習<br>し、実践。                              | 山内裕美子                        | 沈淇文<br>黄臣成<br>中嶋美鈴<br>(通訳)<br>山川多美<br>(通訳) |
| 7  | 平成 27 年<br>7 月 18 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 7 人 | 地震速報を<br>読む                             | ①地震発生時のニュース速<br>報を読み取る練習をする。実<br>際にニュースを見て、震度を<br>読み取る実践。<br>②文字学習:どんなときにカ<br>タカナを使うかわかる。           | 地引愛                          | 山内裕美子<br>黄臣成                               |
| 8  | 平成 27 年<br>7 月 25 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>301 室 | 6 人 | 病院の受付<br>をする                            | ①病院の初診受付で手続き<br>ができるような表現の練習。<br>②文字学習:自分の名前をカ<br>タカナで書けるように、練習。                                    | 黄臣成                          | 沈淇文  |
| 9  | 平成 27 年<br>8 月 1 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | 病院の診察<br>をする                            | ①病院での診察で自分の症<br>状を話すことができるような<br>表現の練習。<br>②文字学習:カタカナの 50 音<br>表を使って、カタカナを読む。                       | 植木光輝                         | 沈淇文  |
| 10 | 平成 27 年<br>8 月 8 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | ①病院場面<br>の総復習<br>②学習の振<br>り返り           | ①病院の手続きから診察の<br>場面を復習し、実際にできる<br>ようになったか、ロールプレ<br>イで確認する。<br>②学習ポートフォリオを使い、<br>これまでの自分の学習を振り<br>返る。 | 山内裕美子                        | 黄臣成<br>【後半のみ】<br>湯川知佳<br>(通訳)              |

|    |  |            |                        |     |   |   |   |                               |
|----|--|------------|------------------------|-----|---|---|---|-------------------------------|
| 11 | 平成 27 年<br>8 月 29 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 6 人 | ①オリエン<br>テーション<br>②休みの日<br>の話をする<br>I                 | ①前回の学習の振り返りを<br>基に、学習ポートフォリオを使<br>用して、自分の新しい目標を<br>立てる。<br>②休みの間にしたことについ<br>て、話す表現を練習する。                  | 山内裕美子   | 沈淇文                           |
| 12 | 平成 27 年<br>9 月 5 日(土)<br>10:00-12:15   | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | ①休みの日<br>の話をする<br>II<br>②6 月 6 日<br>~8 月 8 日<br>までの復習 | ①休みの間にしたことについ<br>て、楽しかったなど、感想を<br>述べる表現の練習。<br>②6 月 6 日~8 月 8 日までに<br>学習したことを、ロールプレイ<br>でできるようになったか確認。    | 地引愛   | 黄臣成                           |
| 13 | 平成 27 年<br>9 月 12 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | 自己紹介を<br>する   | ①自分の名前、出身、趣味な<br>どを聞く・使える表現の練習。<br>②文字学習:50 音表を見な<br>がら、ひらがな・カタカナを読<br>む練習。                               | 黄臣成   | 植木光輝                          |
| 14 | 平成 27 年<br>9 月 19 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | チラシを読<br>む  | ①スーパーのチラシによく出<br>てくる表現の読み取りの練<br>習。実際にチラシを見て、ど<br>のスーパーが一番安いか読<br>み取る実践。<br>②文字学習:長音と促音の発<br>音と表記の法則がわかる。 | 植木光輝  | 山内裕美子                         |
| 15 | 平成 27 年<br>9 月 26 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | 道を聞く  | ①目的地までの道を尋ねる<br>際の表現を練習。<br>②文字学習:申込書に書いて<br>ある「名前、氏名、住所」な<br>どの表記がわかる。                                   | 山内裕美子   | 黄臣成                           |
| 16 | 平成 27 年<br>10 月 3 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 7 人 | 119 番に電<br>話をする                                       | ①119 番に電話をかける際に<br>必要な表現の聞き取りの練<br>習。住所を伝える練習。<br>②文字学習:自分の住所を<br>書くことができる。                               | 植木光輝  | 黄臣成                           |
| 17 | 平成 27 年<br>10 月 17 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | 119 番通報<br>訓練   | 東京消防庁豊島消防署目白<br>出張所の消防士を招き、119<br>番に電話をかける際に必要<br>な表現の練習。119 番に通報<br>する実践。                                | 植木光輝  | 山内裕美子                         |
| 18 | 平成 27 年<br>10 月 24 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | ゴミ出しを<br>する   | ①ゴミの分別がわかる。自分<br>のゴミが何ゴミかわからない<br>際、尋ねる表現の練習。<br>②文字学習:申込書の自分<br>の住所以外の部分を書くこと<br>ができる。                   | *高橋摩帆<br>*斉藤健一<br>郎<br>*呉健超<br>【前半】<br>地引愛<br>【後半】<br>黄臣成 | 植木光輝                          |
| 19 | 平成 27 年<br>11 月 7 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 6 人 | 交番へ行く   | ①落とし物をした際に、どん<br>なものを落としか、説明す<br>る表現の練習。<br>②文字学習:申込書を書く実<br>践。   | 地引愛   | 山内裕美子                         |
| 20 | 平成 27 年<br>11 月 14 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 6 人 | ①道聞きと<br>買い物の復<br>習<br>②学習の振                          | ①教師に指定された店に行<br>って、予算内で買い物をする<br>実践。店までは、必ず町の人<br>に道を聞く実践も行う。   | 黄臣成   | 山内裕美子<br>山川多美<br>(通訳)<br>湯川知佳 |

|    |  |            |                        |     |  |  |                     |                     |
|----|--|------------|------------------------|-----|--|--|---------------------|---------------------|
|    |  |            |                        |     | り返り                                    | ②学習ポートフォリオを使い、これまでの自分の学習を振り返る。   |                     | (通訳)                |
| 21 | 平成 27 年<br>11 月 28 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | ①オリエン<br>テーション<br>②自己紹介<br>をする<br>(復習) | ①前回の学習の振り返りを<br>基に、学習ポートフォリオを使<br>用して、自分の新しい目標を<br>立てる。<br>②自己紹介でよく使われる表<br>現を練習し、自己紹介を実践<br>する。       | 山内裕美子               | 黄臣成                 |
| 22 | 平成 27 年<br>12 月 5 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | レストランの<br>入店をする                        | ①レストランの入店の際によ<br>く聞かれる人数や席について<br>の聞き取り、言い方の練習。<br>ロールプレイで確認。<br>②文字学習:年賀状がどんな<br>ものかわかる。              | 地引愛                 | 山内裕美子               |
| 23 | 平成 27 年<br>12 月 12 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | レストランで<br>注文をする                        | ①レストランの注文の表現の<br>練習。ロールプレイで確認。<br>②文字学習:年賀状の宛名<br>の位置と書き方の練習。  | 黄臣成                 | 呉健超                 |
| 24 | 平成 27 年<br>12 月 19 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | レストランの<br>予約をする                        | ①レストランの予約の表現の<br>練習。ロールプレイで確認。<br>②文字学習:年賀状によく書<br>く言葉を書く練習。   | 地引愛                 | 黄臣成                 |
| 25 | 平成 28 年<br>1 月 9 日(土)<br>10:00-12:15   | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 3 人 | イベント<br>準備をする<br>I                     | ①他のクラスの学習者と自己<br>紹介の実践。<br>②自分の国の有名な飲み物<br>について話し、イベントの実<br>施に向けて、何の飲み物に<br>ついて紹介したいか考え、グ<br>ループ分けを行う。 | 山内裕美子               | 楊爽                  |
| 26 | 平成 28 年<br>1 月 16 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 4 人 | イベント<br>準備をする<br>II                    | ①イベントの実施に向けて、<br>グループの中の分担を相談<br>する、どんな順番で発表す<br>るか、相談する。<br>②自分の国の有名な飲み物<br>について紹介する表現の練<br>習。        | 地引愛                 | 山内裕美子               |
| 27 | 平成 28 年<br>1 月 23 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | イベント<br>準備をする<br>III                   | 自分の国の有名な飲み物に<br>ついて紹介する表現の練習。  | 山内裕美子<br>黄臣成        | なし                  |
| 28 | 平成 28 年<br>1 月 30 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 3 人 | スポーツセ<br>ンターへ行<br>く                    | ①初めてスポーツセンターに<br>行き、どんなことができるか<br>聞く表現の練習。ロールプ<br>レイで確認。<br>②自分の国の有名な飲み物<br>について紹介する表現の練<br>習。         | 山内裕美子               | 黄臣成                 |
| 29 | 平成 28 年<br>2 月 13 日(土)<br>10:00-13:00  | 3<br>時間    | 目白庭園                   | 4 人 | イベント:自<br>分の文化の<br>紹介をする               | ①日本茶(せん茶、ほうじ茶)<br>の入れ方の実践を見ながら、<br>説明を聞いて実践する。<br>②自分の国の有名な飲み物<br>を紹介する実践。                             | 山内裕美子               | 地引愛                 |
| 30 | 平成 28 年<br>2 月 20 日(土)<br>10:00-12:15  | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 5 人 | ①これまで<br>の復習<br>②学習の振                  | ①これまで学習した語彙・表<br>現の復習。語彙のグルー<br>分けを行い、その活用を確認  | 【前半】<br>黄臣成<br>【後半】 | 【前半】<br>地引愛<br>植木光輝 |



|    |                                       |            |                        |     |             |  |                             |                              |
|----|---------------------------------------|------------|------------------------|-----|-------------|--|-----------------------------|------------------------------|
|    |                                       |            |                        |     | り返り         | する。<br>②今までの教室の感想を活用に気をつけながら、話す実践。<br>②学習ポートフォリオを使い、これまでの自分の学習を振り返る。 | 黄臣成<br>地引愛<br>植木光輝<br>山内裕美子 | 山内裕美子<br>【後半】<br>吉野恵<br>(通訳) |
| 31 | 平成 28 年<br>2 月 27 日(土)<br>10:00-12:15 | 2.25<br>時間 | 学習院大学<br>南1号館<br>306 室 | 3 人 | 自分の日本語能力を知る | ①日本語能力判定を実施し、自分の今の日本語能力を知る。<br>②判定後、結果に基づき、コンサルテーションを実施。             | 地引愛<br>植木光輝<br>黄臣成          | 大西秀幸<br>(通訳)                 |

## (7) 特徴的な活動風景(2~3回分)

### 取組事例①

#### 【第 17 回 平成 27 年 10 月 17 日 東京消防庁豊島消防署目白出張所との連携授業】

東京消防庁豊島消防署目白出張所の方々を講師として迎え、119 番への通報訓練の授業を行った。授業の流れは以下の通り。

- ①119 番への通報をする際、どんなことを聞かれるか、前の週の復習をしつつ確認。
- ②消防士の方に実際、火事や救急車を呼ぶ際、どんなことに注意すべきか確認。質疑応答。
- ③学習者と消防士の方が一対一で、119 番への通報ロールプレイ。
- ④119 番通報の実践。
- ⑤学習ポートフォリオで自分の学習を評価

\* 写真は、②で消防士さんの講義を聞いているところ(左)と③で個別に練習している様子(右)。



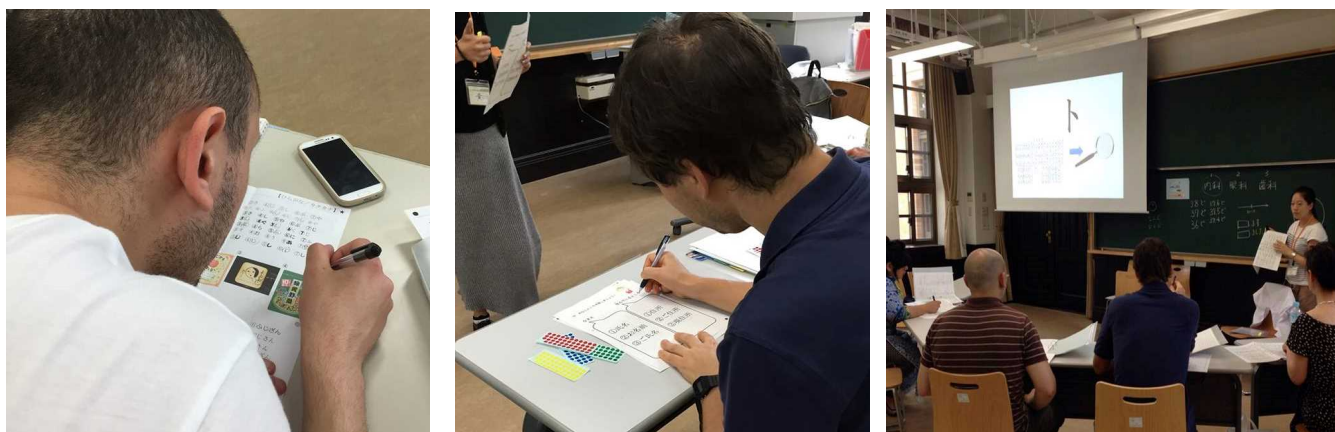
### 取組事例②

#### 【第 2 回 平成 27 年 6 月 13 日～文字学習】

第 2 回から、毎回 10 分程度の文字学習を行った。ひらがな・カタカナ 50 音を順番にひとつずつ教えるのではなく、文字を読む・書く際の重要なポイントだけ教え、ひらがな・カタカナを読み、書けるようになることを目指した。第 2 回～第 9 回「50 音表を使って、ひらがな・カタカナを読んだり、書いたりできる」、第 13 回～第 19 回までは「申込書を書くことができる」、第 22 回～24 回までは「年賀状が書ける」を目標に、授業を行った。

全てオリジナルの教材を作成、使用した。

\* 写真は、オリジナル教材を使って、文字学習をしている学習者の様子(左・中)とパワーポイントを使った文字導入の様子(右)。



## (8) 目標の達成状況・成果

### 1) 日本語能力について

教室に参加している学習者の日本語能力を知るために、日本語能力判定を2回行った。1回目は、7月下旬から8月上旬にかけて行い、2回目は2月27日に行った。年間を通して継続的に教室に通った5名の学習者の結果を見ると、どの学習者も、四技能(読む・書く・聞く・話す)のうち、少なくとも1つの技能について1レベル以上伸びていた。

### 2) 日本の地域社会に溶け込む経験と自信について

2月20日から2月27日にかけて、教室を振り返るアンケートを行った。アンケートによると、どの学習者も、教室に通ったことによって、日本語を使う機会が増えた、日本語が上手になった、日本で生活しやすくなった、日本の文化・社会・習慣の知識が増えたという意見であった。日本の地域社会に溶け込む経験と自信を培うという点で、ある程度の成果があったと考えられる。

### 3) 継続的・自律的な学びへの支援について

授業内と授業外において学習者の日本語学習を記録・支援するツールとして「学習ポートフォリオ」を使用した。今年度は、教室を開始してからまもなくして、記録する意義や方法を伝えることができ、昨年度よりも学習者が効果的に活用しているように思えた。実際に、学習者からも便利で役に立っているという意見もあった。しかし、自分の学習を管理することが得意な学習者とそうでない学習者があり、得意ではない学習者に学習ポートフォリオの効果や意義、使い方について十分に伝わらないところがあった。

### 4) 連携の強化について

わくわくクラスでは、東京消防庁豊島消防署目白出張所と国際交流ボランティア Fam の2か所との連携を行った。共に昨年度と同じ団体であるが、講師となった方が違い、外国人住民が日本語を学習しているということを初めて知ったという反応があった。また、実施前は外国人ということで戸惑いもあったが、学習者の積極性を肌で感じ、戸惑いが薄れたという意見もあった。地域社会における外国人住民に対する理解という点で、ある程度の成果があったと考えられる。

## (9) 今後の改善点について

### 1) 参加者数の減少について

今年度は、継続的に参加している学習者が5名に留まり、学習者数を増やすことができなかった。新たな学習者の参加を促すために、広報活動をより積極的に、効果的に行う必要がある。

また、一度授業に参加しても、それ以降は来なくなる学習者もいた。1回1回の授業の中で、それぞれの学習者にとって学びがあるよう、授業を工夫する必要がある。

ある程度の目標(例:電車に乗れるようになる)が達成されると、教室を辞めていく学習者もいた。学習者自身の視点からはその目標が達成できれば十分なのかもしれないが、日本で生活する上では、必ずしも十分な能力を身に付けたとは言えない。学習者と相談しながら、短期的目標、長期的目標など、新しい目標を立て、教室に継続的に参加する動機を学習者に維持してもらう工夫も必要である。

## 2) 学習ポートフォリオの活用について

学習支援の一環として「学習ポートフォリオ」を使用した。今年度は、昨年度よりもポートフォリオの目的や使い方に関する説明を丁寧に行ったため、教室開始後まもなく、学習管理が得意な学習者は積極的に活用するようになったが、得意ではない学習者には効果や意義、使い方について十分に伝わっていないようであった。

今後は、自己の学習管理が苦手な学習者も学習ポートフォリオを積極的に活用できるようになることを目指し、同じ教室で勉強している他の学習者の学習ポートフォリオの使い方を紹介するなど、それぞれの工夫を共有することを活動に取り入れたい。

## 3) 連携先とのやりとりについて

東京消防庁豊島消防署目白出張所、国際交流ボランティア Fam、それぞれと連携を行った。どちらも事前に1回、コーディネーターや担当講師を交えての打ち合わせを行った。打ち合わせでは、当日のスケジュールや流れの他に、趣旨や目的をお伝えしたが、実際の活動段階になると、趣旨が思うように伝わっていないと感ずることがあった。また、打ち合わせの際や当日の活動のやりとりから、連携先にも、当日の趣旨とは別に、学習者に経験をしてもらいたいことや伝えたいことがあると感じた。今後は連携先の希望も伺いながら、「学習者」「日本語教室」「地域の連携先」の目的をすり合わせていくことが必要であろう。

## 取組3: シンポジウム「外国人と共に生きる多文化共生型地域社会の共創ー日本語教育を軸として」

### (1) 体制整備に向けた取組の目標

多文化共生型地域社会の実現に向けて、異なるライフステージの学習者を対象とした「多様な日本語教室」という体制を整備していくための基盤作りのきっかけとする。学習院大学における取組1(生活に役立つ日本語教室)と取組2(社会に生きる日本語教室)が抱える課題を示し、豊島区内の日本語教室と意見交換を行う。また、地域日本語学習支援のあり方について、各分野・専門の方に意見をいただくことで、日本語学習を支援する環境作りについて、具体的な方法を検討する。

### (2) 取組内容

平成26年度(2015年3月)に開催された豊島区と学習院大学との連携を活かす日本語教育を軸としたシンポジウムの成果を踏まえ、知(地)の拠点としての大学と地域(自治体)との連携の経験をもとに、日本語支援に関する新たな方向性を考えるシンポジウムである。学習院大学と豊島区の連携によって行われてきた日本語教室の成果及び、豊島区内の各日本語教室の実施状況について情報共有を行うとともに、多文化共生型地域社会の共創につながる方法を議論し、教室間の連携・協力の可能性を検討した。豊島区の事例の検

討のほか、NPO 法人ボリビア人協会の日本語通信講座の事例報告に基づき、日本語支援の新たな可能性を探った。さらに、参加者全員で、学習を支援する環境作りに関するディスカッションを行った。

(3) 対象者

本事業の関係者、日本語教室の学習者、地域日本語教室関係者、地域の住民など

(4) 参加者の総数 26人※延べ人数ではなく、参加した人数を記載

そのうちの日本語学習者数 3人

【出身・国籍別内訳】

|    |    |      |      |      |        |    |     |       |    |
|----|----|------|------|------|--------|----|-----|-------|----|
| 中国 | 韓国 | ブラジル | ベトナム | ネパール | インドネシア | タイ | ペルー | フィリピン | 日本 |
|    |    |      |      |      |        |    |     |       | 1人 |

※その他の国籍と人数:

シリア 1人、米国 1人

(5) 開催時間数(回数)

・ 3時間 ( 3 時間 × 1 回)

(6) 活動の内容

| 回 | 開講日時                                  | 時間数  | 場所                                      | 参加者数 | 取組のテーマ                                | 内容   | 講師等名  | 補助者                                   |
|---|---------------------------------------|------|---|------|---------------------------------------|--|---|---------------------------------------|
| 1 | 平成 28 年<br>3 月 14 日(月)<br>13:00-16:00 | 3 時間 | 学習院大学<br>国際会議場<br>(中央教育<br>研究棟 12<br>階) | 26 人 | 多文化共生<br>社会の共<br>創ー日本語<br>教育を軸と<br>して | ①学習院大学の実践について<br>の報告、意見交換<br>②豊島区内の日本語教室の<br>状況について情報共有<br>③NPO 法人日本ボリビア人<br>協会の通信講座についての<br>報告<br>④学びを支援する環境作り<br>についての議論 | <講演>土<br>井佳彦<br><報告者><br>金田智子<br>地引愛<br>社長俊<br><コメント><br>岡村良子<br>Hanadi<br>Lababidi<br>Mike Benes | 国際研究教<br>育機構スタ<br>ッフ、村麻<br>央、植木光<br>輝 |

(7) 特徴的な活動風景

取組事例①

【平成 28 年 3 月 14 日 シンポジウム】

1. 学習院大学の取組について、2015 年度の実践報告を行った。各教室の内容、教材教具、能力判定、学習者アンケート、連携について、コーディネーターによる報告を行った。その後、日本語教室の学習者 3 名によるコメント(取組 2 の教室に対する感想・要望、一般的な地域日本語教室に対する要望)があった。
2. 豊島区内各教室の状況について、豊島区と本学担当者が実施したアンケートの結果報告があり、意見交換を行った。
3. 「もう一つの地域日本語学習支援の可能性」と題して、土井佳彦氏に NPO 法人日本ボリビア人協会が実施した「日本語通信講座」の内容や成果・課題について講演していただいた。
4. 報告及び講演の内容を踏まえ、「学びを支援する環境づくり」というテーマで、小グループによるディスカッ



ションを行った。

\* 写真は左から、コーディネーターによる報告、学習者による教室に対する意見・感想、土井佳彦氏による講演、質疑応答、それぞれの様子である。



## (8) 目標の達成状況・成果

参加者アンケートで内容に関する意見・感想を自由に記述してもらったところ、内容に関しては「有意義なシンポジウムだった」「勉強になった」「発表内容が充実していた」「他の教室の様子がわかり、よかった」「学習者の声が聞けてよかった」といった、専ら肯定的な感想であった。また、方法に関しては、「小グループのディスカッションが面白かった」という肯定的な意見があった反面、「(グループ毎の)ディスカッションの内容を全体で共有できたらよかった」という意見もあり、全体の構成、時間配分を工夫すべきであった。さらに、「毎年少しずつネットワークが広がっている印象を受ける」という、継続参加者からのコメントもあった。

今回のシンポジウムには、豊島区内の他の日本語教室から5名もの支援者／指導者の参加があった。これは、昨年、一昨年のシンポジウムと大きく異なる点であり、質疑応答、ディスカッションの際には積極的に情報交換、意見交換が行われた。実施後、運営委員からも「豊島区以外の教室の方がいらして、交流できたのがよい」というコメントがあり、区内日本語教室が連携するきっかけを作ることができたと考える。

## (9) 今後の改善点について

### 1) 方法・時間配分について

区内の他の日本語教室関係者と、情報交換・課題共有・意見交換を行うには、ある程度の時間と回数が必要である。今後は内容・方法を工夫しつつ、複数回、こういった機会を設けることを検討したい。

### 2) 広報について

豊島区内からの参加者が増えたことは大きな改善だが、今回は、広報の開始時期が遅かったことや、周知方法がインターネット中心であったことにより、参加者数自体は昨年度よりも少なかった。今後は、広報開始時期を早めるのと同時に、豊島区報を始め、複数の媒体を用いて広報を行いたい。

## 8. 事業に対する評価について

### (1) 事業の目的・目標

1997年より豊島区と連携して実施している日本語教室を基礎として、2013年からは青年層向け教室と高い年齢層(生活者・社会人)向け教室という二つの日本語教室を運営してきた。本年度はこれまでの小学校から大学、社会人に至るまでの外国人のライフステージにあわせた日本語教育のプログラムを継続しつつ、地域社会との連携をより強化するプログラムを実施する。消防署や保健所・交通対策室・消費生活センター・

清掃環境部(ゴミ分別)、保育園・小学校や国際交流ボランティアなどと連携し、知(地)の拠点としての大学を軸に、日本語教育を通じての「多文化共生型地域社会の共創」に向けてより一層の事業展開を行う。

## (2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

年度末に実施した学習者アンケートでは、青年層を対象とした教室(取組 1)、学生よりも年齢の高い世代の社会人に対する教室(取組 2)のいずれにおいても、日本語力が向上したという回答が回答者全てより得られた。また、回答者 20 名中 19 名が日本での生活がしやすくなったと答え、全員が、提供されたプログラムに満足していると答えている。さらに、取組 2 で実施した「とよた日本語能力判定」によれば、通年参加の学習者の日本語能力はいずれも向上していた。以上により、本事業は良質な日本語学習機会を提供することができたと考えられる。

また、豊島消防署目白出張所、国際交流ボランティア Fam、学習院大学国劇部等と連携・協力して、活動を行った。連携先に対するアンケートの回答には、「異文化に触れることができた」「一生懸命、日本語を使っている姿に好感が持てた」といったものがあり、多文化共生のための要件とも言える「相互理解」が進んだ様子が伺える。

さらに、近隣レストラン、豊島区文化商工部学習・スポーツ課などに対し、学習者自身が直接交渉を行うという活動を行ったが、これは地域との連携の拡大・強化につながるものと期待される。

## (3) 地域における事業の効果、成果

豊島区は約2万人の外国籍住民が暮らすという区であるにもかかわらず、日本語教室は 8 か所(9 教室)でしか開催されておらず、外国人の側、地域社会の側の両方のニーズにあわせた講座の開設が必要であると考えられる。また、大学にとっても日本語教育の拠点として地域に貢献することが求められている。こうした現状、課題の下に本事業は展開された。

取組 1 と取組 2 はいずれも、外国人の日本語学習ニーズを重視し、コース当初にニーズに関する調査を行うなどし、その結果をコース内容に反映した。また、地域と連携した活動を多く取り入れることにより、地域社会側のニーズも反映できるよう工夫をした。その結果、参加した学習者の満足度は、最終アンケートの結果に見るように、非常に高いものとなっている。その反面、学習者数は低迷している。これは、外国人の学習動機、学習目的、学習環境を把握しきれていないこと、プログラムの具体的内容を十分に広報していないこと、などが原因として考えられる。また、昨年同様、学習者の利便性を考えて出張教室を幼稚園の協力の下で計画したが、初回以降、学習者が十分に集まらず、教室を休止することとなった。参加意欲を失わせない、魅力ある授業作りが必要である。

シンポジウム(取組 3)には、区内日本語教室の方々、他地域の日本語教室関係の方々に参加なされた。その際のアンケート回答には、他の日本語教室の実情がわかったこと、本事業で行っているプログラムの内容・方法が詳しくわかったことについて、肯定的な感想が述べられていた。日本語教育を通じて、また、日本語教育の拠点として大学が地域に貢献することが多少なりともできたのではないかと。

## (4) 地域の関係者との連携による効果、成果

前述のとおり、複数の組織・機関と連携・協力をした。連携先に対するアンケートの回答は、外国人、異文化、日本語学習者、と接することに対する肯定的なものであり、受容的な態度を生み出すことにつながっている。また、連携先はいずれも次の機会も協力すると明言している。また、今回、学習者がある組織に直接、協力を依頼し、断られるということが起こった。この活動において連携は実現しなかったが、直接の交渉をしたことによって、連携依頼先が日本語学習者の存在や要望を知ることになったのは確かである。来年度以降の

連携可能性を期待したい。

第 2 回運営委員会において、豊島区内の日本語教室の現状を把握する必要性が話題となり、その後、豊島区と学習院大学それぞれの担当者が協力し、区内日本語教室に対するアンケート調査を実施した。その結果、支援者・指導者の不足を問題とする教室がいくつかある一方で、多くの教室にとって「学習者が少ない・続かない」が共通の課題であることがわかった。原因・理由については今後、探っていく必要があるが、区内日本語教室に関するアンケート調査が実施でき、その結果をシンポジウム(取組 3)において共有できたことは、日本語教室間の横のつながりを生む。今回の調査は、豊島区内の今後の日本語教育の体制整備に向けた、貴重な第一歩となると考えられる。

## (5) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

### 1) 参加者への周知・広報

主に以下の方法で行った。

#### ①ポスター掲示及びチラシ配布

・取組 1 に関しては、中級レベル以上の学習者を想定していることから、わかりやすい「やさしい日本語」でポスターを作成し、日本語学校、大学内各所で掲示をした。

・取組 2 のチラシに関しては、昨年度の参加者と豊島区内の外国人の国籍を考え、日本語と英語、日本語と中国語(繁体字)、日本語と中国語(簡体字)、日本語とミャンマー語の 4 種類を作成した。豊島区商工部学習・スポーツ課生涯学習グループに、チラシの役所内配置などご協力いただいた。さらに、豊島区内の外国人保護者に教室の情報が行き渡るよう、区立保育園・幼稚園へのチラシ配布をしていただいた。私立の保育園・幼稚園には、指導者及びコーディネーターがチラシを持参した。また、外国籍児童の多い区立小学校にも送付した。今年度の参加者の多くは、区役所でチラシを受け取り、教室を訪れた。

#### ②エスニックメディアへの広告

取組 2 に関しては、中国・台湾人向け情報新聞(中国網博週報)とミャンマー人向け情報誌に広告を掲載した。これにより、日本社会と接点の少ない外国人にも情報が流れるように努めた。この情報誌を見て、実際に教室に来た学習者が数名いた。

#### ③Web の活用

豊島区公式ホームページ内にある「日本語教室のご案内」に各教室の情報を掲載していただいた。また、大学ホームページ、Facebook グループページにおいて、教室の募集情報を常に掲示した。ただ、地域の学習者はインターネットの使用状況において個人差が大きく、広報効果は大きいとは言えない。しかし、Facebook によって、むしろ国外で教室のことが知られるようになり、予想外の反響があった。

<取組 1> <https://www.facebook.com/gak.nihongokyoshitsu>

<取組 2> [http://www.gakushuin.ac.jp/univ/geore/research/research\\_a-5-2.html](http://www.gakushuin.ac.jp/univ/geore/research/research_a-5-2.html)  
<http://www.facebook.com/waku2.nihongo>

### 2) 事業成果の地域への発信

#### ①Web の活用

前項の「1) 参加者への周知・広報」でも述べたように、Facebook を通じて、授業の様子を逐次、公開している。たとえば、取組 2 に関しては、2016 年 3 月 15 日現在、640 人が「いいね！」と反応している。

#### ②シンポジウムの実施



取組 3 として実施したシンポジウムにおいて、事業報告を行った。開催に際し、区内の他の日本語教室全て(7 教室)に開催の案内をしたところ、関係者 5 名の参加があった。また、このシンポジウムでは、取組 2 の学習者 3 名に、日本語教室に対する感想などを話してもらった。話の内容や大勢の人の前で話すことそのものが、事業成果の一部であり、地域への発信が少なからずできたと考えている。

### ③日本語学習活動自体を通じた発信

取組 2 の今期の授業では、外国人と接触機会の乏しい日本人が参加できる機会が複数設けられた。たとえば、2 月 13 日に実施した「自分の文化を紹介する」である。この授業では、国際交流ボランティア Fam の協力を得て、外国人との接触があまりない日本人にも来ていただき、日本人と学習者全員が自身の国・地域の特徴的な飲み物について紹介をし、互いに質問をするということを行った。日本人参加者のアンケート回答には、「外国人に対して戸惑いがあったが、日本のことをよく理解している様子があり、より親近感がわいた」といったものがあり、外国人と日本人の相互理解が進んでいくと同時に、事業成果を発信する機会ともなった。

### ④雑誌等による公表

今後、日本語教育関係の雑誌などで、本実践の成果をまとめたものを随時、公表する計画である。雑誌に掲載することにより、区内の教育関係者の理解が進むことを期待している。

## (6) 改善点, 今後の課題について

### 1)日本語学習者の状況・要望への対応

よりよい内容・方法を提供するためには、地域の外国人・日本語学習希望者の学習環境・要望を把握する必要がある。日本語教室実施に関し情報を行き渡らせる一方で、学習を希望する人の要望を反映した内容、学習環境を配慮した方法を検討したい。

### 2)学びに対する動機づけを高める授業・活動の設計

継続的な学習を促進・支援するため、各回の授業や活動を工夫する。具体的には、1回1回の授業で確実な学びが実感できること、教室外の日常生活の中で、日本語に対する意識を高めること、である。それを可能にする授業設計、教材作成を行う。

### 3)連携先の開拓、交渉方法の再考

外国人と日本人の協働・共生を進めるため、新たな連携先を開拓する。また、教室側の要望を提示するだけでなく、連携先の期待を把握し、共に行う活動の目的・内容・方法について十分な話し合いをするよう心掛ける必要がある。

### 4)学習ポートフォリオのさらなる有効活用

プログラムの途中から参加する方にとっても十分にポートフォリオの意義・使用方法がわかるような、受け入れ体制を作る。また、ポートフォリオがうまく活用できない学習者、自律的な学びに結び付けることが困難な学習者に対する支援の方法を検討し、具体化する。

## (7) その他参考資料

次ページ以降は、取組 2 で使用した、連携先アンケートの書式と、学習者アンケートの書式(終了時)である。学習者アンケートとして添付するのは中国語版だが、併せて英語版も作成・使用している。

1. 外国人に対する印象は、今回の活動を実施する前と、実施した後で変わりましたか。

2. 今回の活動は、参加した外国人、または活動を準備した自分自身にとって、役に立ったと思いますか。どんな点で役に立ったでしょうか。

3. もし、来年度も今回のような機会がありましたら、何か工夫したいと思われることはありますか。それはどんなことでしょうか。

きょうしつ 教室 アンケート調査問巻 調査問巻

今後のわくわくとしま日本語教室を改善する(良くする)ための質問です。
以下は為改善今後豊島 WAKUWAKU 日文教室の問巻 / 以下是为改善今后丰岛 WAKUWAKU 日语教室的问巻

I. 以下の文について、あてはまる 1~5 のうち、あてはまる数字に○をつけてください。
その後の質問に、自由に答えてください。
以下の句子、從 1~5 選出適合的號碼。沒有數字的問題請自由回答。
以下の句子、从 1~5 中选出适合的号码。沒有数字的问题請自由回答。

1. この教室に来る前よりも今のほうが、生活の中でよく日本語を使うようになったと思いますか。
自從我來到這個教室之後，我在生活中使用更多日文 / 自從我來到這個教師之後，我在生活中使用更多日文。

Table with 5 columns of Likert scale options for Japanese usage frequency, ranging from 'used less' to 'used much more'.

<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に日本語を使うようになりましたか。
選3到5的人, 在哪一些時候使用日文的頻率變多了? 選3到5的人, 在哪一些時候使用日文的頻率變多了?

Empty rectangular box for handwritten answers to question 1.

2. この教室に来るようになって、日本語が上手になったと思いますか。
自從我來到這個教室，我覺得我的日語進步了 / 自從我來到這個教室，我覺得我的日語進步了

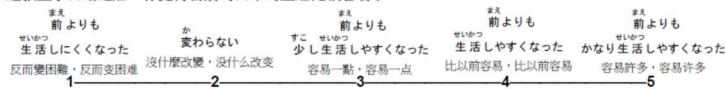
Table with 5 columns of Likert scale options for Japanese proficiency, ranging from 'became worse' to 'became much better'.

<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に上手になったと感じますか。
選3到5的人, 什麼時候你覺得日語進步了? / 選3到5的人, 什麼時候你覺得日語進步了?

Empty rectangular box for handwritten answers to question 2.

3. この教室に来る前よりも今のほうが、日本で生活しやすくなったと思いますか。

來這教室學日文之後，你覺得目前的日本的生活比較容易了。  
來這教室學日語之後，你覺得目前的日本的生活比較容易了。



<3から5の人> Q.たとえば、どんな時に生活しやすくなったと感じましたか。

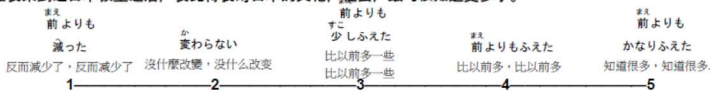
選3到5の人、什麼時候你覺得你在日本的生活變得容易了？

選3到5的人、什麼時候你覺得你在日本的生活變得容易了？

4. この教室に来る前よりも今のほうが、日本の文化・社会・習慣について知っていることがふえたと思いますか。

在我來到這日文教室之後，我覺得我對日本的的文化，社會，跟習慣知道更多了。

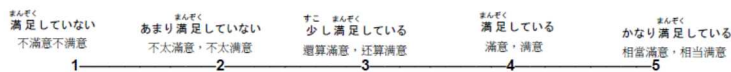
在我來到這日本教室之後，我覺得我對日本的的文化，社會，跟習慣知道更多了。



<3から5の人> Q.たとえば、どんなことですか。

對於選3到5的人、哪一方面知道更多了？ / 對於選3到5的人、哪一方面知道更多了？

5. この教室の内容に満足していますか。你对這教室的内容滿意嗎？ / 你对這教室的内容滿意嗎？



6. もっと日本語を勉強したいと思いますか。你想學更多日文嗎？ / 你想學更多日文嗎？

思わない 思う  
1 5

II. 以下の質問に、自由に答えてください。 Please answer the following questions.

1. 教室で、どんなことが難しいと思いましたが。

這個教室的哪一個部分你覺得很困難？ / 这个教室的哪一部分你覺得很困難？

2. 教室で、どんなことがおもしろいと思いましたが。

這個教室的哪一個部分你覺得很有趣？ / 这个教室的哪一部分你覺得很有趣？

3. わくわくとした日本語教室を振り返って、良いと思う点を具体的に書いてください。

回想這一整年，你覺得我們教室的優點在哪裡？請具體描述。

回想這一整年，你覺得我們教室的有點在哪裡？請具體描述。

4. わくわくとしま日本語教室を振り返って、良くなかった点・改善したほうがいいと思う点を具体的に書いてください。来年度の教室をよりよくするための質問ですので、意見を自由に書いてください。

回想这一整年，请具体写出你觉得这教室应该改善的部分。这是为了改善本教室的教学品质，我们想知道你的意见。

回想这一整年，请具体写出你觉得这教室应该改善的部分。这是为了改善本教室的教学品质，我们想知道你的意见。

5. わくわくとしま日本語教室は、1セッション（10回）の教材費が1000円です。授業料は無料です。この教室の授業に、授業料として、1回（2時間）いくらまでなら払いたいと思いますか。

今年我們收 1000 日圓的教材費。課程本身是免費的。如果你可以對本教室付費，你覺得你願意付多少？

今年我們收 1000 元日元的教材費，課程本身是免費的。如果你可以對本教室付費，你覺得你願意付多少？

- ①無料がいい 免費比較好    ②¥300    ③¥500    ④¥1000    ⑤¥2000  
 ⑥¥3000    ⑦¥4000    ⑧¥5000    ⑨その他 其他（¥    ）

6. 次のわくわくとしま日本語教室に来ますか。

来たい人は連絡先を書いてください。

下一个年度的日文教室，你有興趣嗎？如果你想參加的話，請寫下你的聯絡方式。  
 下一个年度的日文教室，你有興趣嗎？如果你想參加的話，請寫下你的聯絡方式。

|      |   |
|------|---|
| 名前   |   |
| 住所   | 〒 |
| 電話番号 |   |

一年間、お疲れ様でした！そして、ありがとうございました！！

